

## 事業概要

応募No.	3		
事業主体	札幌市	実施都市名	札幌市
応募者名	札幌市 建設局 土木部		
ふりがな 事業名称	としけいかくどうろ 8・6・3 にし2ちょうめちかほどうせいびじぎょう 都市計画道路 8・6・3 西2丁目地下歩道整備事業		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業は、北1西1地区の大規模複合施設であるさっぽろ創世スクエア(札幌市民交流プラザ)と札幌市営地下鉄大通駅を結ぶ地下歩道の整備であり、平成27年度に工事着手し、さっぽろ創世スクエアの開業に合わせた平成30年9月13日に供用を開始しております。</p> <p>地下歩道の通路部分の延長は130m、内空幅は8m、内空高さは2.8mとなっており、躯体については昭和61年に地下鉄東豊線を整備した際に併せて建設した通路を活用しております。</p> <p>また、道路としての機能だけではなく、民間広告を活用したエリアマネジメント事業を行うとともに、札幌市民交流プラザの情報発信やプラザの利用促進・市民の文化芸術意識の醸成を図る空間として、都心の賑わいの創出に寄与する施設となることを目指し、空間を活用しています。</p>		
事業規模	事業延長	150m(通路部分延長:130m)	
	幅員	8.0m	
	事業期間	平成26年度～平成30年度	
	事業費	約44億円	

# 事業位置図

S=1:7,500



札幌市

事業箇所:西2丁目地下歩道

さっぽろ創世スクエア  
(札幌市民交流プラザ)



北1西1地区再開発事業で整備された札幌市施設(札幌文化芸術劇場、図書・情報館)及び、事務所、放送局、店舗、駐車場などで構成される大規模複合施設

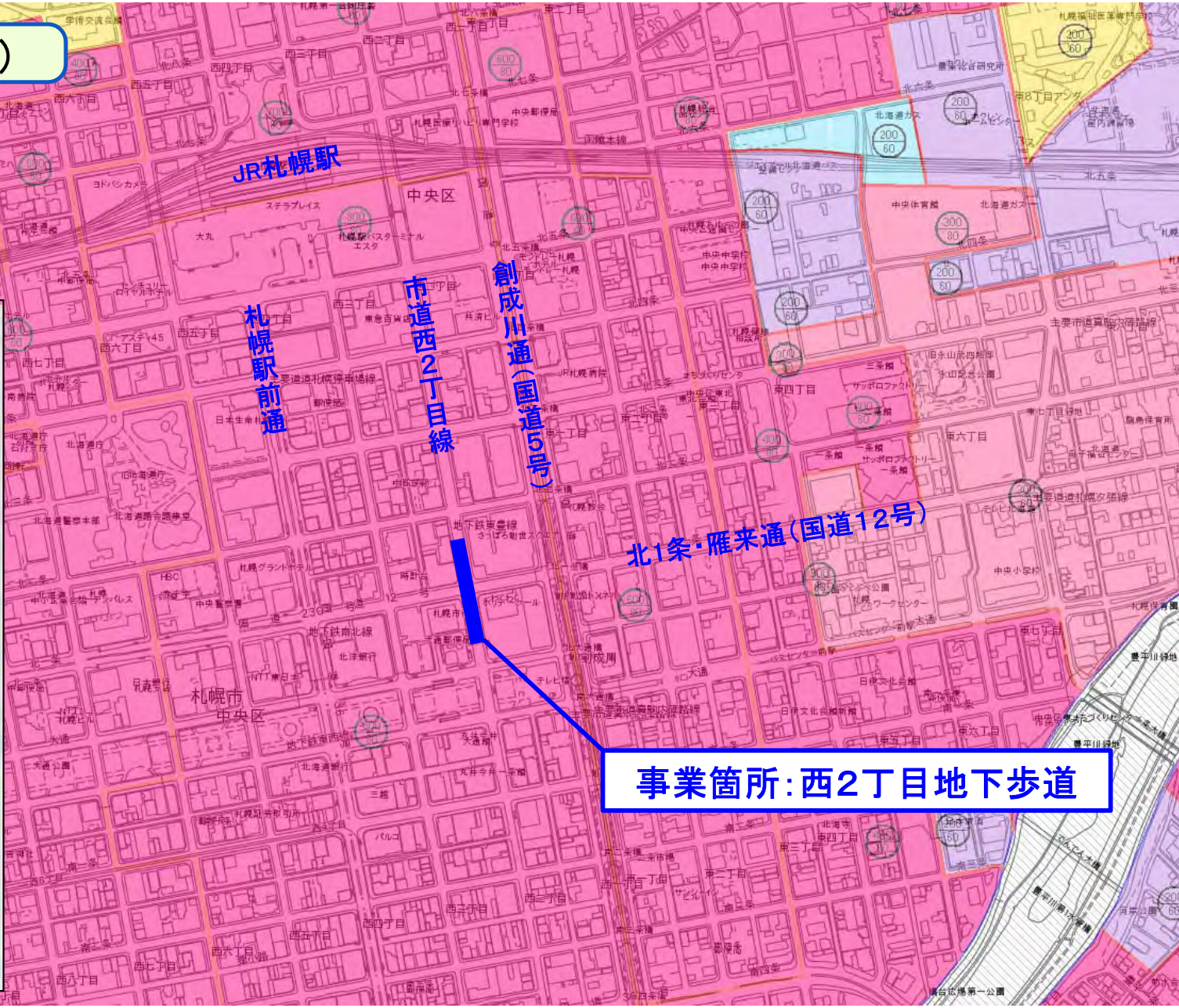
北1条-雁来通  
(国道12号)

都市計画図(用途地域図)



S=1:7,500

地図の図類	凡例
第一種低層住居専用地域 (敷地面積の最低限度165㎡)	
第一種低層住居専用地域	
第二種低層住居専用地域	
第一種中高層住居専用地域	
第二種中高層住居専用地域	
第一種住居地域	
第二種住居地域	
準住居地域	
近隣商業地域	
商業地域	
準工業地域	
工業地域	
工業専用地域	
市街化調整区域	



事業箇所: 西2丁目地下歩道



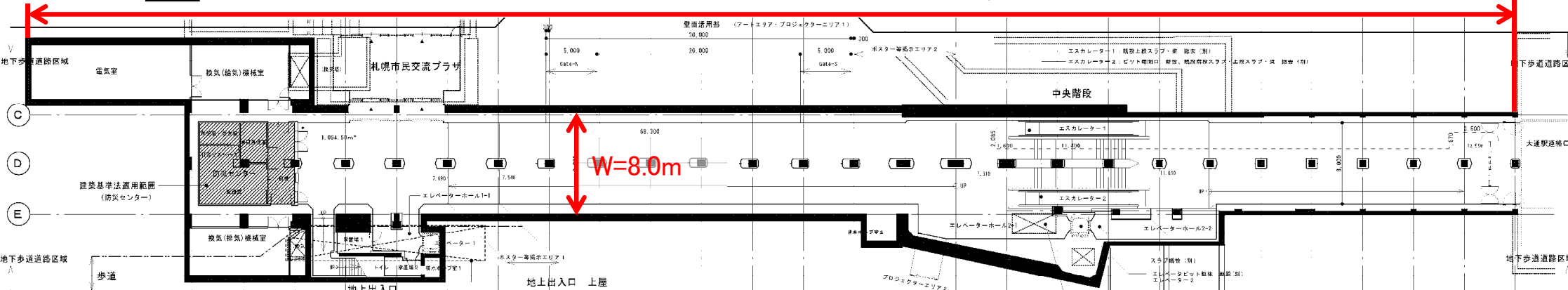
# 平面図、縦断図、横断図

(西2丁目地下歩道整備事業)

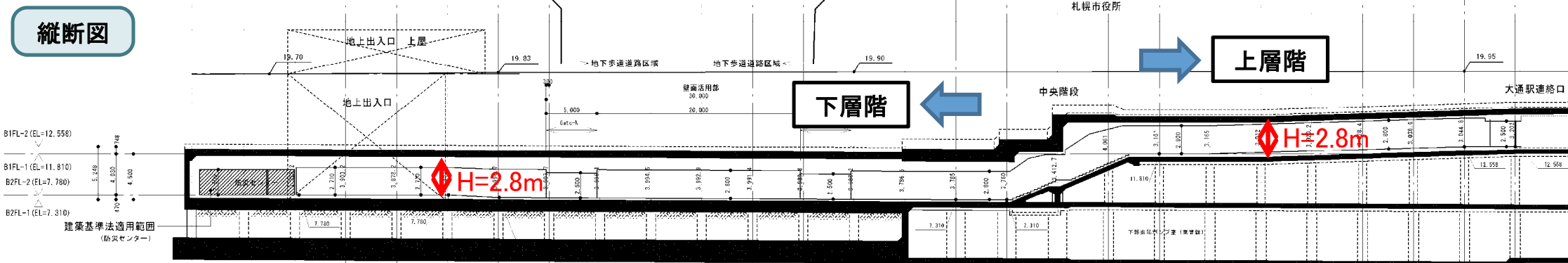
平面図



## 西2丁目地下歩道 L=150m(通路延長L=130m)

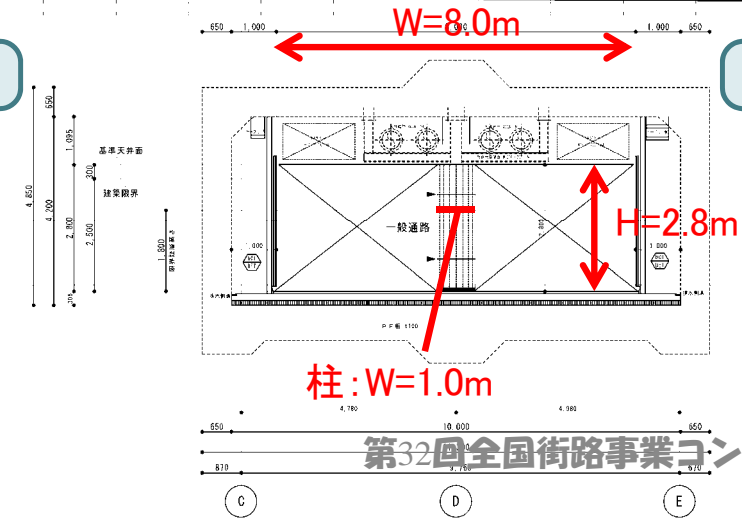


縦断図

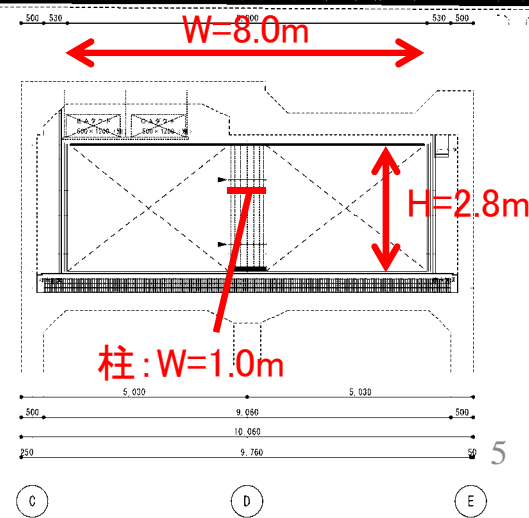


横断図

下層階代表断面

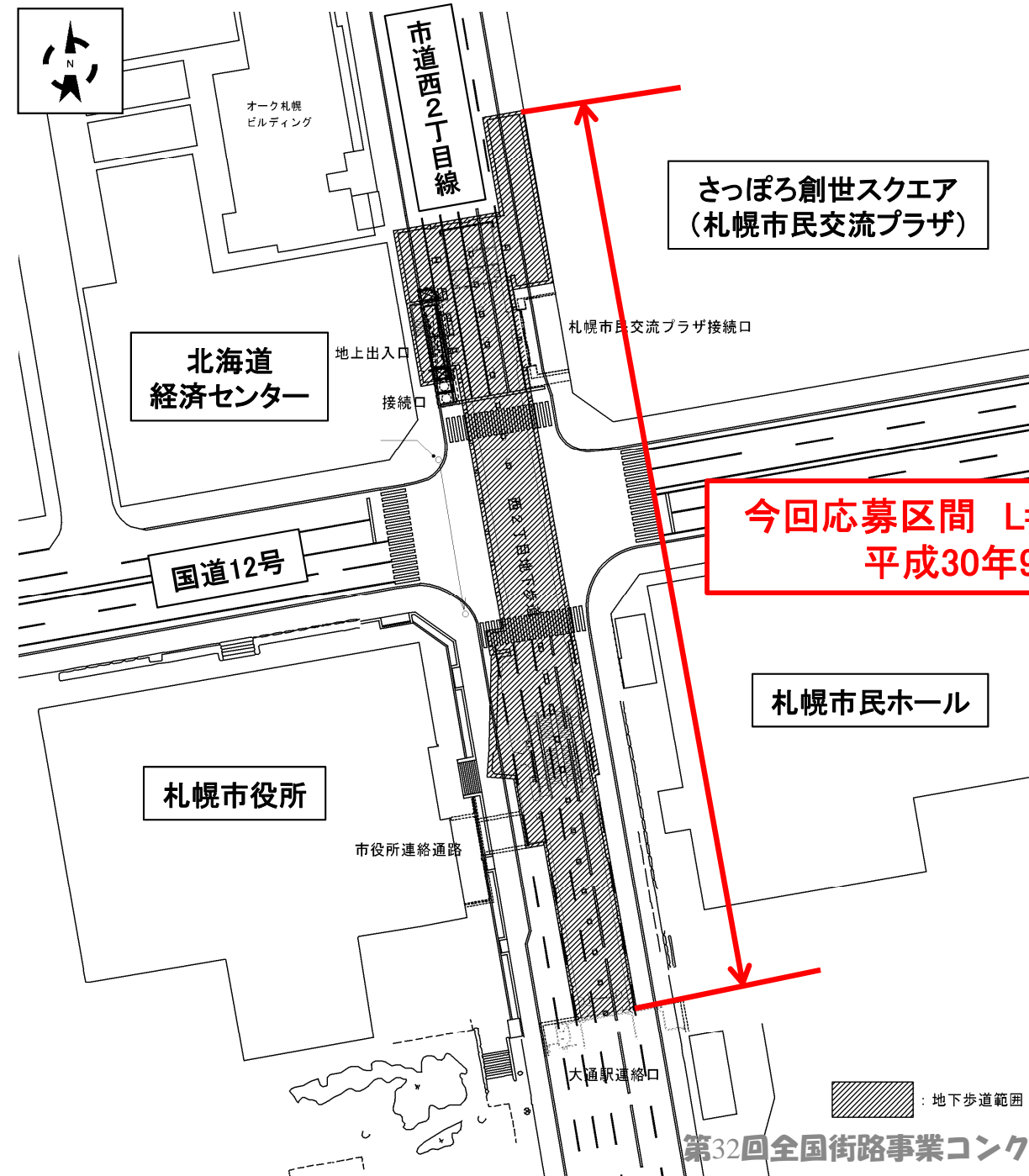


上層階代表断面



# 路線全体の進捗状況

(西2丁目地下歩道整備事業)



今回応募区間 L=150m 平成30年度完成  
平成30年9月13日供用開始

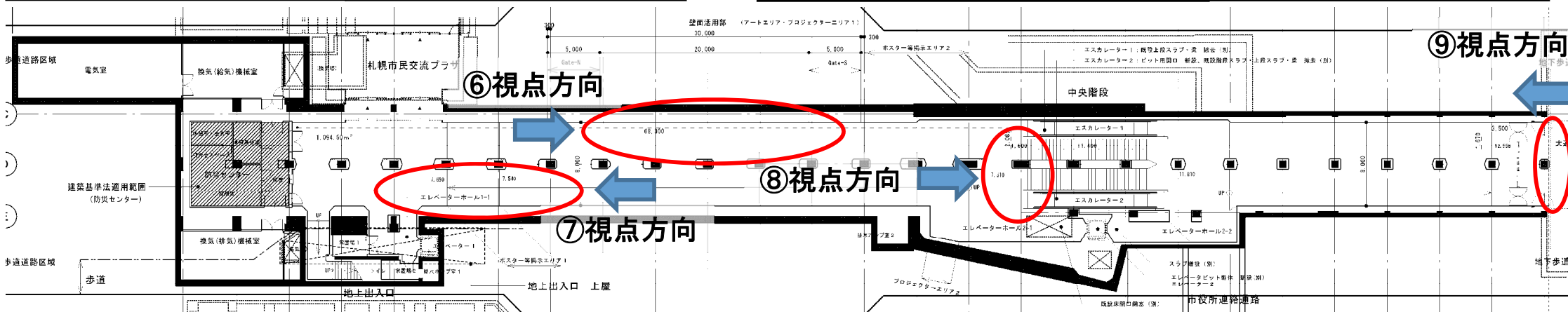




⑥下層階(情報発信エリア)



⑨上層階(地下鉄大通駅接続部)



⑦下層階(経済センター側)



⑧下層階(中央階段下)





## ○事業効果

(交通の安全の確保)

- ・歩行者が、交通量の多い国道12号を横断せず地下歩道を通行できるようになったため、歩行者の移動時における安全性及び円滑性が向上した
- ・札幌文化芸術劇場でイベント開催時、劇場利用者が地上と地下に分散することで、地上部の歩行者の滞留を防ぎ、交通の安全を確保した

(交通サービス水準の向上)

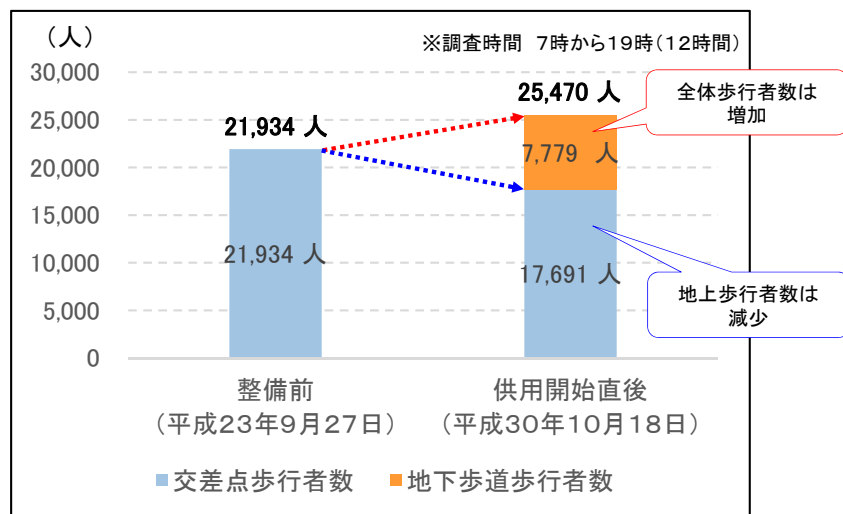
- ・地下鉄東豊線大通駅コンコースと直結したことにより、公共交通機関とのアクセス性が向上した

(生活利便性の向上)

- ・公共施設等が地下でつながることにより通行環境が改善されたため、季節や天候に左右されない都心全体の回遊性が向上した
- ・上層階～下層階、及び、地上～地下歩道を直結するエレベーターを整備したことにより、バリアフリーな地下ネットワークが拡張された

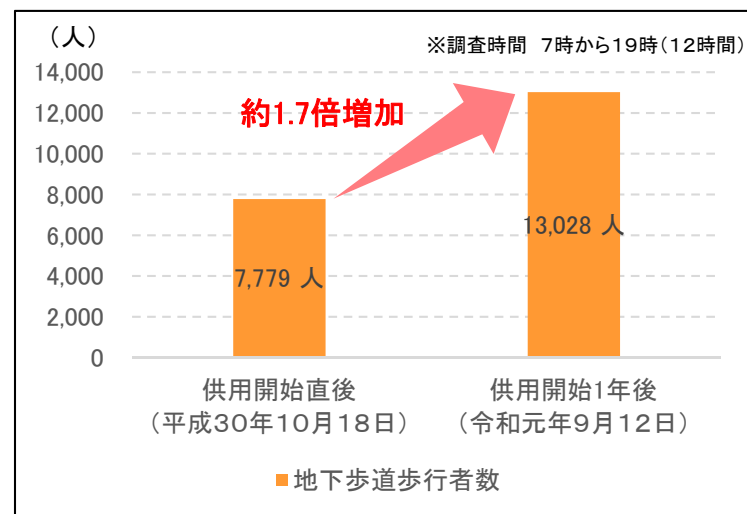
## ○事業効果の検証

### ①市道西2丁目線×国道12号交差点における歩行者数



西2丁目地下歩道及びさっぽろ創世スクエアが整備されたことにより、全体の歩行者数が増加した。また、全体歩行者の約30%は地下歩道を利用したことにより、地上を渡る歩行者数は減少した。

### ②西2丁目地下歩道の歩行者数



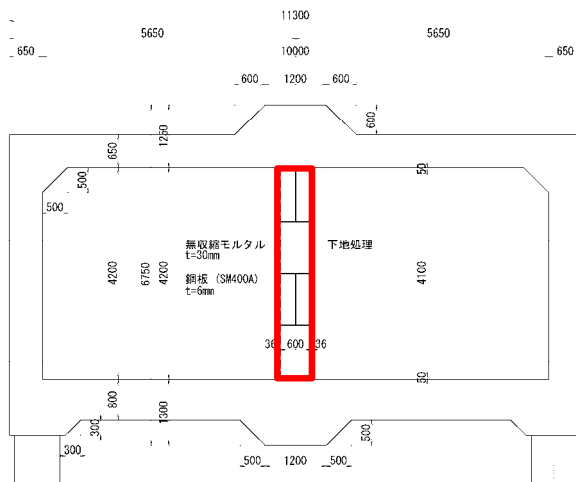
供用開始後約1年間で、歩行者数が約1.7倍増加した

## ○既存ストックの活用

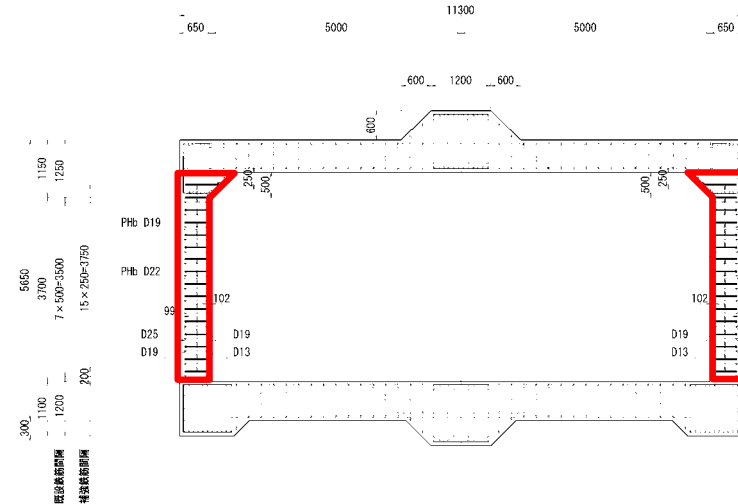
- ・昭和61年に地下鉄東豊線を整備した際、併せて建設した地下躯体を有効利用して整備を行った
- ・現在の構造基準に適合させるため、通路中央部の柱には鋼板巻立て、側壁には後施工せん断補強鉄筋による耐震補強を行った
- ・既存施設を利用して整備したため、工事中は地上部の交通規制を最小限にとどめることができ、一般交通に与える影響が低減した

【耐震補強概要図】

鋼板巻立て補強(断面図)



後施工せん断補強(断面図)



## ○関係事業者との協力

- ・利用者の利便性向上のために、地下歩道とつながる各施設管理者(札幌市民交流プラザ、北海道経済センター、地下鉄大通駅及びさっぽろ地下街)と協議・調整を行い、地下歩道への通行可能時間を地下鉄の営業時間に合わせた
- ・「札幌地下街総合共同防火・防災管理協議会」へ加入し、災害発生時に地下歩道、大通駅及び地下街を一体の空間として防災活動を行うこととした

# 工夫等アピール資料

(西2丁目地下歩道整備事業)

## 西2丁目地下歩道の空間活用について

### 1. 空間活用の目的

西2丁目地下歩道は、道路としての機能のみならず、札幌市民交流プラザが建設される創世交流拠点や地下鉄大通駅、札幌市役所等をつなぐ貴重な地下空間として、都心の賑わいの創出に寄与する施設となることを目指し空間を活用する。

### 2. 活用エリア

西2丁目地下歩道の中央部に位置するエスカレーターを中心にエリアを分け、下記の3箇所において空間活用を行う。

- ①上層階(エスカレーターより南側)通路中央  
→ **ストリートファニチャー(ベンチ)の設置**
- ②上層階(エスカレーターより南側)壁面  
→ **エアーマネジメント広告の実施**
- ③下層階(エスカレーターより北側)壁面  
→ **札幌市民交流プラザ等の情報発信**

### 3. 各活用の概要

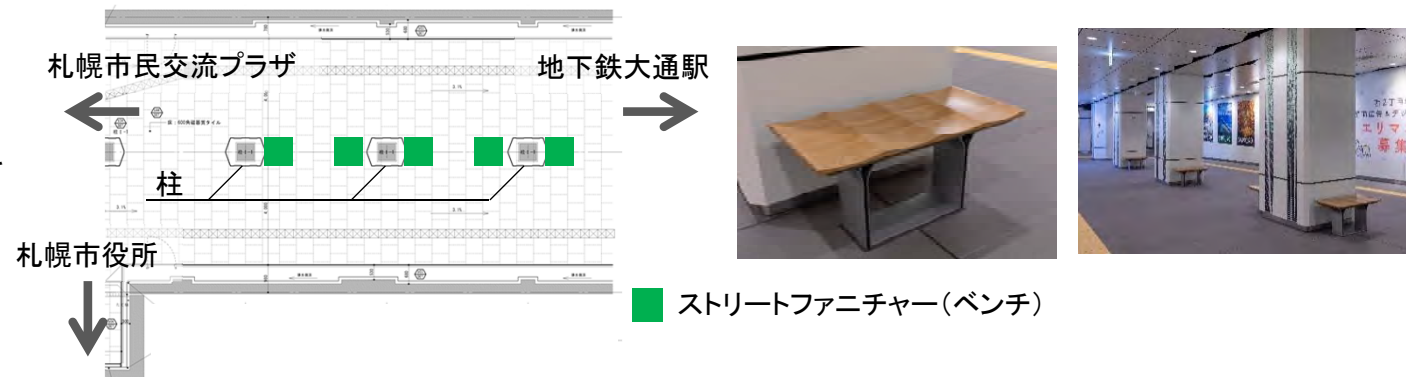
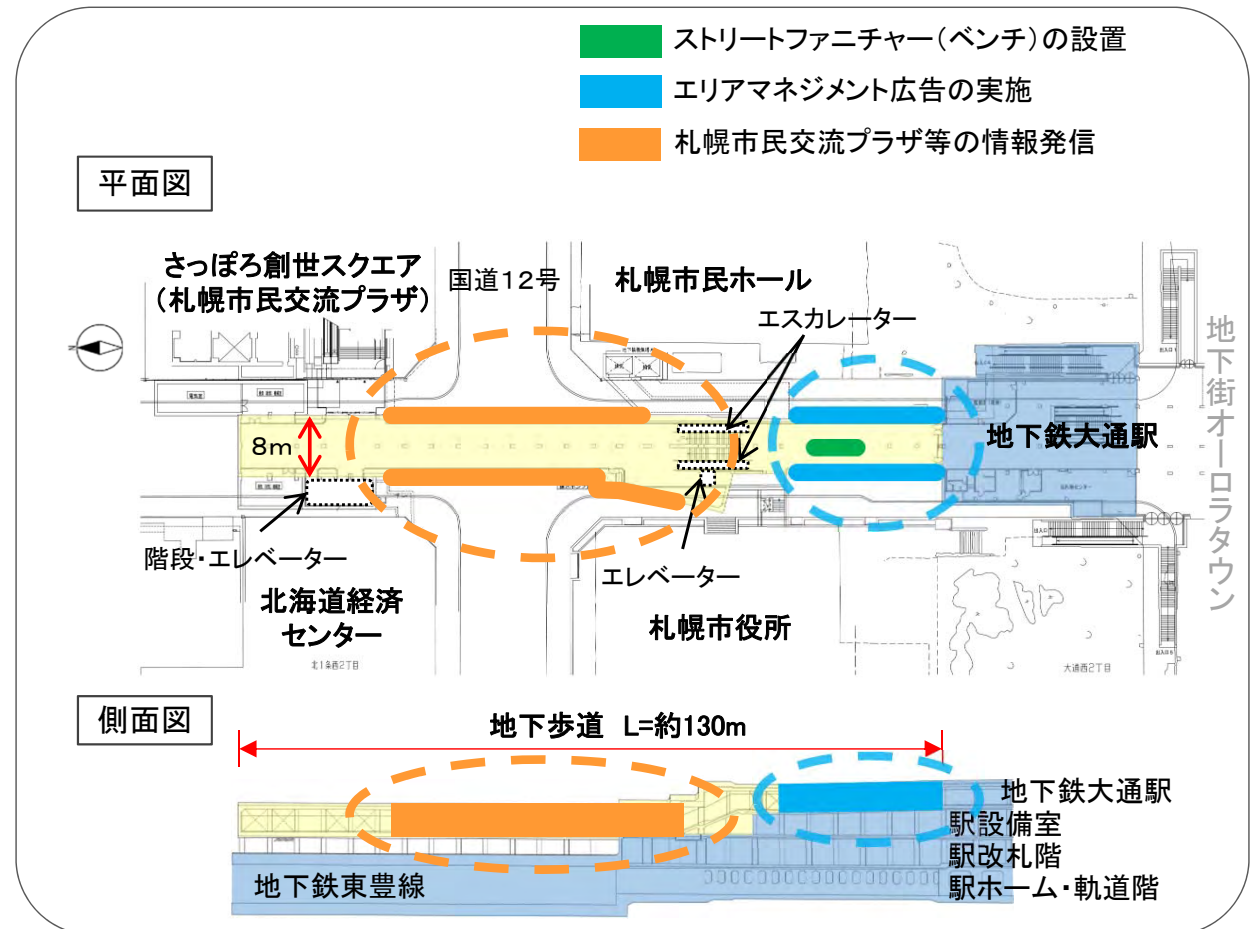
#### ストリートファニチャー(ベンチ)の設置

##### ○概要

- ・札幌市民交流プラザ及び札幌市役所等が接続することにより、市民交流の拠点となる当該地区に賑わい創出を創出することを目的とし設置
- ・札幌市立大学にデザイン監修を委託

##### ○ストリートファニチャーの設置箇所

- ・通路中央柱間の5箇所に設置



# 工夫等アピール資料

(西2丁目地下歩道整備事業)

## エリアマネジメント広告の実施

### ○概要

- ・広告料を地域における公共的な取組みに要する費用へ充当することを目的として、広告を掲出
- ・エリアマネジメント事業として、札幌大通まちづくり会社が事業者となり運営
- ・民間事業者の広告に加え、行政情報を発信するため、民間活力を活用

### ○広告等の内容および事業スキーム

#### 【ポスター広告】

- ・通路両側壁面に設置
- ・民間事業者の広告を掲出
- ・広告料を公益活動に要する費用へ充当

#### 【デジタルサイネージ】

- ・札幌市役所接続部前に設置
- ・行政情報を表示

#### 【デジタルサイネージの運営および費用の負担方法】

- ・デジタルサイネージの放映枠全体の50%以上を行政情報とし、残りの放映枠を民間事業者の広告として配分
- ・デジタルサイネージの設置作業及び運営、維持管理は、エリアマネジメント事業者から委託を受けた民間事業者(広告代理店)が実施



ポスター広告

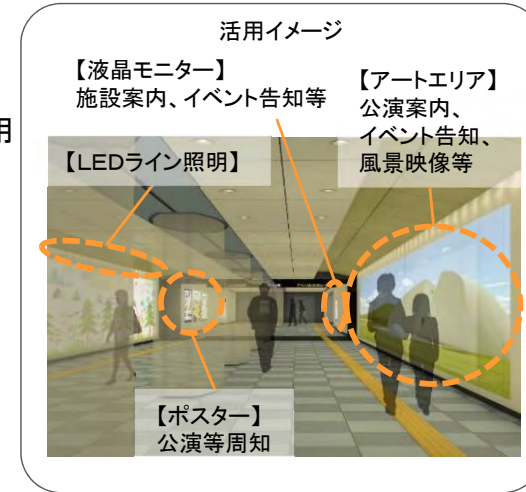
## 札幌市民交流プラザ等の情報発信

### ○概要

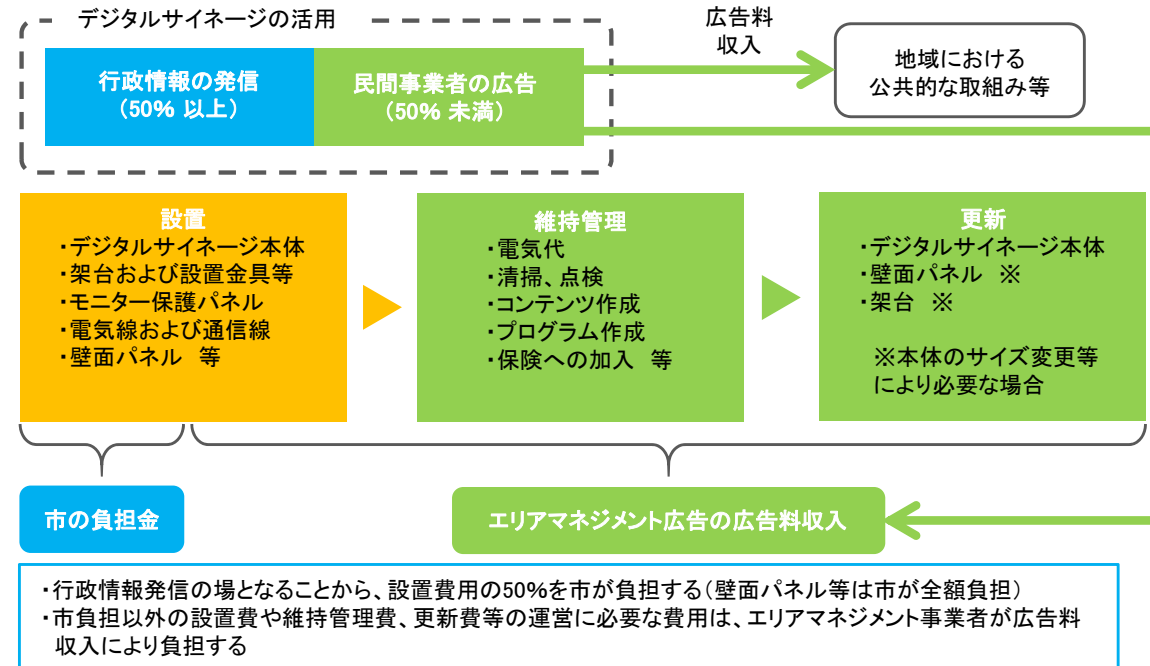
- ・札幌市民交流プラザ等の情報を発信
- ・文化芸術振興、創造活動の拠点となる札幌市民交流プラザの導入空間であることから、文化芸術をにじみ出せるような空間として活用

### ○活用方法および活用イメージ

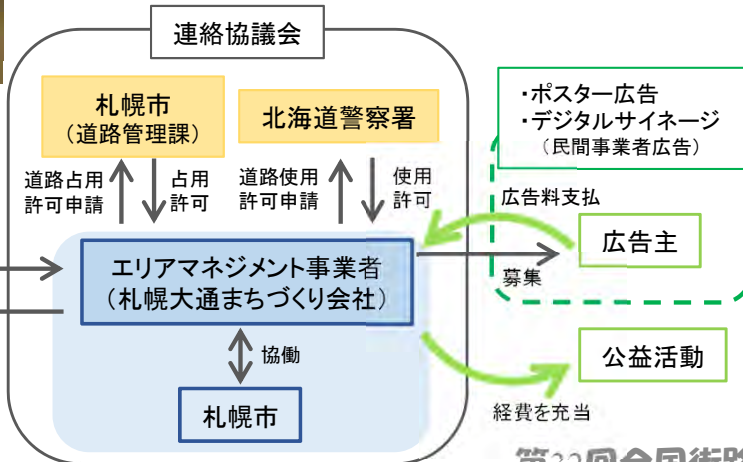
事業・公演ポスター 公演紹介の映像投射



### 【デジタルサイネージの運営および費用の負担方法】



### 【エリアマネジメント事業スキーム】



# 西2丁目地下歩道開通へ

## 来月13日 大通駅・市役所・創世スクエアなど直結

札幌市は9月13日、地下鉄大通駅と札幌市役所庁舎、札幌文化芸術劇場が入る大型複合施設「さっぽろ創世スクエア」などを結ぶ「西2丁目地下歩道」を開通する。天候に左右されない地下歩道を整備することで、市民や観光客の利便性を高め、にぎわいのあるまちづくりを目指す。

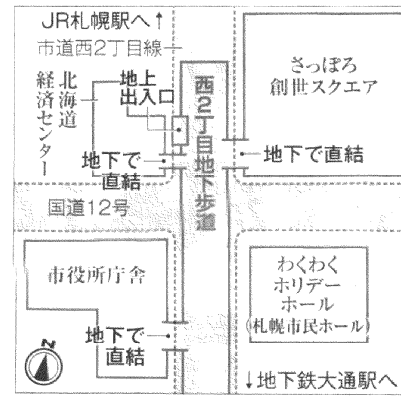
(五十嵐知彦)

### 延長130m 建設31年、ようやく活用

歩道は市役所庁舎（中央リデールホール）とわくわくホール、北1西1とわくわくホール、北1西2）間を走る「西2丁目地下歩道」にあり、地下鉄東豊線大通区北1西2）とわくわくホール、北1西1）間を走る「西2丁目地下歩道」



新設される「西2丁目地下歩道」



▲西2丁目地下歩道のイメージ図。壁面には市内観光地などの映像を流す（札幌市提供）

駅につながる。総延長は約130m、幅8m。地上の出入り口は1カ所で、札幌商工会議所などが入る北海道経済センター前に設ける。創世スクエア、北海道経済センターと市役所庁舎の3施設は地下で直結させる。

歩道の壁面にはプロジェクターを使い、映像で創世スクエアの公演を告知する。市内の観光地のPRも行い、まちのにぎわいづくりに役立てる。

地下歩道は1987年、東豊線工事に合わせて市の第三セクター札幌振興公社が当時約4億円をかけて建設したが、使われないままだった。

今回、市が買い取った上で、出入り口などの整備を行った。総事業費は約44億円。

市は西2丁目地下歩道からJR札幌駅までの北1、北3（約260m）についても、地下歩道の建設を検討している。来年度中に方針を示す考え。

平成30年8月23日 北海道新聞

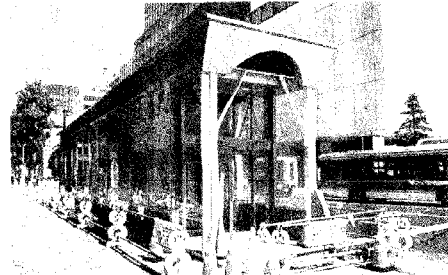
## 受賞歴・報道資料

### 9月13日に開通

#### 札幌市の西2丁目地下歩道

札幌市は、北1西1地区の市民交流プラザ開業に向けて整備を進めていた、西2丁目地下歩道を9月13日に開通する。同地区を軸に創世スクエアや地下鉄大通駅、市役所本庁舎などをつなぐ地下空間として、総事業費約1億円をかけた整備。同日に開業式典を開催する。

創世スクエア整備で増加が見込まれる交通の円滑化や安全性向上のほか、公共交通機関とのアクセス、季節や天候に左右されない都心全体の回遊性の向上を目的に整備を進めてきた。



経済センタービル側に新設した地上入り口

地下歩道の空間は、10月1日にオープン。このほか、エスカレーターやエレベーター、機械・電気室などを整備。札幌市民交流プラザの情報を活用し、都心のにぎわい創出につなげる。

平成30年8月21日 北海道建設新聞

